14　ガンの波動免疫栄養療法

○大森　隆史（大森内科・アレルギーくりにっく）

［目的］ガンの通常療法は、外科療法、抗ガン剤療法、放射線療法を中心に行われているが、効果と副作用（免疫力の低下）の点から最適な治療法とは言い難い。このため、今後のガン治療として通常療法との併用、もしくは代替療法単独で免疫反応の反応場を調整して自己治癒力を高める総合的治療（波動免疫栄養療法）を検討する必要がある。

［方法］波動免疫栄養療法は、低周波波動を直接的、間接的に体内に作用させ免疫反応場を調整し、タンパク質、ビタミン剤等の利用、さらに機能性食品、紫イペ（タベブイヤアベラネダエ）等をＢＲＭとして用い、免疫力増強、抗腫瘍作用を高める治療法で、今回は大腸ガン、乳ガン治療などに応用した。

［成績］症例１．60才 男性 大腸ガンの肝転移手術を前に波動免疫栄養療法を行ってＣＥＡ値が一週間で35.9から24.6（正常は2.5以下）へ低下し、転移巣切除手術後は３～５で安定し、画像的にも再発の兆候はない。症例２．51才 女性 大腸内視鏡にてガン細胞を認め、入院前より波動免疫栄養療法を実施し、一週間にＮＫ細胞活性が15％から25％（基準値は18％から48％）へ増加後、手術を受け順調に経過している。

［結論］波動免疫栄養療法は腸管免疫を含めた免疫力の反応場を波動で調整し、紫イペ等の機能性食品により自己治癒力を高めることで、ガン治療効果に貢献する可能性がある。